

やなかわ

YANAGAWA 2013.

No.191

3月1日

今号の内容	ページ
◆特集・認知症	2~7
◆国民健康保険の手続きはお早めに	8
◆国保の特定健診3月追加実施ほか	9
◆年度替わりの時期は日曜も開庁ほか	10~11
◆学校図書館コンクール2校が優秀賞ほか	12
◆市長選、市議補選のお知らせほか	13
◆市民のひろば(14-15) ◆川柳(15) ◆図書館・水の郷ニュース、柳川百選まち歩き(16-17) ◆情報わいど(18-23) ◆がんばったね・ぬくもり(23-24) ◆柳川にこの人あり 龍猛彦さん(24) ◆もちふみデビュー(25) ◆保健ガイド(26-27) ◆新市史抄片(28)	



さげもんめぐり あでやかに始まる

柳川の春の一大イベント「柳川ひな雛祭り さげもんめぐり」が、2月11日から始まり
ました。同祭りの初日を飾るのはおひな様始祭。日吉神社で神事が終わると、温かい
日差しの中、お内裏様やお雛様、稚児らは台車と山車に乗り込んでパレードを行いま
した。パレードは、柳川商店街から西鉄柳川駅を通り、藤吉小学校までの約1時間。
沿道から稚児の保護者やアマチュアカメラマンなどが、パレードの様子をカメラに収
めていました。「柳川ひな雛祭り さげもんめぐり」は、4月3日まで催されます。

有明海の幸 海を越える

『福岡県統計書』をめくると、近代の地域の特徴が見えてきます。例えば昭和5(1930)年の勧業編を見ると、福岡県の缶詰生産高約44万円の内、半分以上になる約29万円を山門郡で生産しています。山門郡は福岡県内の一大缶詰産地だったので。



缶詰のラベル

缶詰の技術は明治4(1872)年、初めて日本にもたらされました。当初はあまり注目されなかった缶詰でしたが、日清戦争、日露戦争を経る中で軍用の食糧として注目され、発展してきました。

柳川の缶詰業は明治14年に設立された興産義社こうさんぎしゃに始まります。興産義社もやはり日露戦争以降大きく発展し、アメリカ合衆国向けに輸出を行う一方で、朝鮮半島にも分工場を設立するま

でになりましす。

興産義社については『柳河新報』にも多くの記事が見られ、士族授産事業の成功例として『新柳川明証図会』でも取り上げられています。もう一人、近代柳川の缶詰業を考える上で重要な人物がいます。その人物とは中村宗太郎むらたけ そうたろうです。

彼は明治38年に西海さいかい罐詰商會かんせつしょうかいを設立、大正8(1919)年にはこれを西海罐詰殖産株式会社とします。大正13年からアサリの水煮の缶詰でアメリカへの輸出市場への参入をめざし、昭和2年には牡蠣かきの缶詰も輸出を開始します。

ところが昭和4年10月、ニューヨーク株式市場の大暴落を皮切りに世界恐慌が始まります。アメリカは昭和5年から保護貿易政策を採り始め、アサリ水煮缶詰に対しても高率の関税をかけることを決定します。このことが有明海沿岸の缶詰業に大きな影響を与えることが予想されました。

当時の陳情書によると製造工場はほとんど休業状態となり、養殖した貝も放置したまま採取されない状態となります。職人や採取人、運搬人など7千名近くが失業状態となり、その他農漁

村への間接的影響も見られると伝えられています。

そのため、昭和5年に福岡県や佐賀県などで有明海輸出品類罐詰水産組合を設立。翌年には千葉県を含めた日本輸出品類罐詰水産組合へと拡大していきます。中村宗太郎はこの副理事長を務めます。

事業目的は輸出品類缶詰の生産量調整や生産の合理化、品質の向上、そしてアメリカ以外の販路開拓などでした。彼はアメリカにおける市場調査のため渡米したほか、イギリスやオーストリア、オランダ、そしてエクアドルなどの販路を開拓するため通信を交わしていた記録が残されています。

こうした努力の結果、昭和10年の記録にはアメリカの他に中国や中南米、ギリシヤ、オーストリアとの取引が記されています。また、前述した『福岡県統計書』でも、この年の山門郡の缶詰生産高は約50万円と拡大しており、生産量も増加しています。

有明海の幸は海を越えて、さまざまな国のいろいろな人々の口に入ったことでしょう。

市史編さん係 宗 建郎

問い合わせ 市生涯学習課市史編さん係 ☎72・1275

編集後記

●9年目を迎える愛車。買い替えも考えたが、他に乗りたい車もない。大幅に手を加え、もうしばらく乗り続けることにした。修理を終えピカピカになり戻ってからの2週間目。何気なく車体を見回すとバンパーにこすり傷。誰かに当て逃げされたようだ。やり場のない怒りに振るえた。

●ロシアに隕石隕石が落ちたニュースが大きく報道された。大気中で燃え尽きると流れ星がきれいだなで終わるのだが、地表まで落ちると恐怖に。どこにでも隕石が落ちてくる可能性があることを思い知らされたが、今回の隕石より大きなものが落ちてきたらと思うと、ぞっとする。(賢治)

●新婚旅行でハワイへ。衣料品店の試着室付近に外国人男性が一人。表情がさえない彼を観察していると試着を終えた女性が出てきた。すると彼が満面の笑みで親指を立て似合っていることを猛アピール。が、女性は試着室に逆戻り。国籍は違うが彼を心から応援したくなった。(和久)

平成25年1月末現在

人のうごき

- 人口 70,919人 (前月比-66)
- 男 33,594人 (-19)
- 女 37,325人 (-47)
- 出生 35人、死亡 90人
- 転入 133人、転出 144人
- 世帯数 24,847世帯 (-16)